

文字数等の上限について（案）

中期目標の達成状況評価

1. 課題

- 検証アンケートにおける法人・評価者からの意見
 字数制限及び根拠資料の頁制限について、法人の肯定的回答は3割程度であり、計画数が多い法人が制限に否定的な傾向がある。一方、評価者は適切な分量であると考えている者が多い。
 また、達成状況報告書の内容について、法人・評価者から一般社会には理解しやすい内容ではなかったと考えられている。
- 中期目標・計画の項目数の減少
 第2期では、目標・計画数の上限が定まり、中期目標・計画の項目数が減少している（小項目は41%減、中期計画は65%減）。

2. 見直し案

【第1期】					【第2期】
	学部・研究科数	字数上限	別添資料頁上限		
国立大学法人	12以上	70,000	70	➔	変更しない
	5~11	40,000	40		
	4以下	25,000	25		
大学共同 利用機関法人	5	75,000	75		
	4	60,000	60		

- 第1期の字数制限を踏襲しても、中期目標・計画の項目数が減少しているため、1計画当たりの字数分量は増加するため、全体の分量は維持しつつ、社会にも理解しやすいものとする事は可能と考えられる。

（参考）

◆第2期における中期目標・計画数を基礎とした試算（国立大学法人）

	学部・研究科数	字数上限	別添資料頁上限	平均中期計画数	1計画当たり字数	1期との比較	1計画別分量	1期との比較
国立大学法人	12以上	70,000	70	43	1,628	3.4倍	1.6	3.3倍
	5~11	40,000	40	41	976	3倍	1.0	3倍
	4以下	25,000	25	39	641	2.4倍	0.6	2.4倍
	平均値				41	1,082	3倍	1.1

学部・研究科等の現況分析

1. 課題

- 検証アンケートにおける法人・評価者からの意見
 字数制限及び根拠資料の頁制限について、「教育」「研究」とともに、法人・評価者から、おおむね肯定的な回答を得ている。
 また、現況調査表の内容について、特に評価者から一般社会には理解しやすい内容ではなかったと考えられている。
- 分析項目・観点の簡素化等
 第2期では、「教育」の分析項目・観点を簡素化（分析項目：5→2、観点：10→4）した。また、質の向上度は、第1期のように各事例を記述するのではなく、分析項目ごとに、重要な質の変化の状況を記述することとし、重要な質の変化があったと判断できる場合にのみ提出することとしている。

2. 見直し案

【第1期】 [1つの学部・研究科当たり]

	字数上限	別添資料頁上限
教育	9,000	10
研究	60,00	6

【第2期】



変更しない

- 第1期の字数制限を踏襲しても、「教育」の分析項目・観点を簡素化（分析項目：5→2、観点：10→4）し、また、質の向上度について、重要な質の変化があったと判断できる場合にのみ提出することとしているため、1観点当たりの字数分量は増加するため、全体の分量は維持しつつ、社会にも理解しやすいものとする事は可能と考えられる。

(参考)

◆第2期における項目数を基礎とした試算 [国立大学法人において1組織当たり]

	分析項目	観点	質の向上度	字数上限	別添資料頁上限	1観点当たり字数	1期との比	1観点別添頁数
教育	2	4	2	9,000	10	1,500	2.2倍	1.7
研究	2	2	2	6,000	6	1,500	1.4倍	3

(質の向上度の記述は1分析項目に1つと仮定)